



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:チビクワガタ

学名:*Figulus binodulus*

チビクワガタは、体長1~2cmほどの小型のクワガタムシです。成虫になっても朽ち木の中で生活し、朽ち木をかみ碎いて、幼虫が食べやすくします。このように、親が子どもと一緒に住み、この世話をする行動を亜社会性といいます。初夏に産卵し、秋には成虫が羽化しますが、そのまま朽ち木の中で過ごし、初夏になると朽ち木から出て分散するとされています。そのため、成虫は年間を通して朽ち木の中に見られますが、夏になると灯りに飛来したり、倒木のまわりで見られることもあります。

チビクワガタの大顎は、雌雄とも小さく、大顎の形で区別することは困難です。体型も筒状で、朽ち木の中での生活に適していると言えるでしょう。繁殖期の成虫は肉食性が強く、ミミズや他の昆虫の幼虫を食べることが報告されています。そのため、たくさんの個体を一緒に飼育すると、共喰いをするようです。

生息地は、関東より西の低地から低山地で、暖地の昆虫です。広島県では、福山市、尾道市、三原市、安芸太田町、広島市で記録されています。

比和自然科学博物館に所蔵されているチビクワガタの標本は個体数が少なく、もし見つけたら、分布記録として報告するとともに、標本を寄贈してください。

【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

